

# 集落協定 かわら版 (第35号)

(平成23年12月21日 山口県農業経営課)

今回は、大型集落協定をご紹介します！



上下宇津根・丸山集落協定  
面積 田 59ha  
内急傾斜 14ha、緩傾斜 45ha  
参加者 農業者 43人、  
非農家 8人、法人 1  
交付金 718万8千円  
共同取組活動 63.5% (H22実績)

「山口県中山間地域等直接支払制度検討会」(県の第三者委員会)の委員である山口県消費者団体連絡協議会の若崎智子さんが、山口市阿東徳佐中の上下宇津根・丸山集落協定取材しました。



## ため池、水路の縁あって

・・・山口市阿東徳佐中  
上下宇津根・丸山(かみしもうづ  
ね・まるやま)集落協定・・・

今回は山口市阿東徳佐中の上下宇津根・丸山集落協定にお邪魔しました。協定代表の吉松敬祐さん(70歳)から農業に賭ける熱いお話を聞きました。

中山間直支協定取組のきっかけは？  
当集落協定は、上宇津根、下宇津根、丸山の3集落から構成されています。3集落共有のため池(福谷ため池)の補修があったため、第1期対策の平成12年度から、3集落共同で中山間地域等直接支払制度(以下、中山間直支という。)の集落協定に取り組んでいます。

当地区は大きな河川がなく、灌漑水が不足するため、ため池とその水路(福谷水路、総延長4km以上)の維持・補修が重要な課題となっています。ため池の水が無くなれば営農に困るので、

用水期には毎日二人の当番で、必要量を流すようにしています。各農地に水を回していくのにも手間と経費をかけています。



< 福谷ため池 >

また、今年は、多雨時の被害を低減する目的で、ため池からの水路の取水口に開閉ゲートを設置しています。



< 福谷ため池取水口 >

農地の維持管理はどのようにしていますか？

昭和 62 年に当地区の基盤整備が終わり、集落毎に営農組合ができています。組合には大型の田植機があるので、個人農家は田植機を持っていません。各自がその田植機を借りて、自分で田植えをしています。田植えは雨天でもで

きるので、田植機は計画的な運用がしやすいです。一方収穫用のコンバインは、使用時期が天候に左右され、計画的に運用しにくいいため、各農家が持っています。

営農基盤や営農体制が整っているので、今でも農地は維持出来ています。ほ場整備はやれる時にやっておかないといけないな、と思いますね。

交付金は鳥獣被害防止対策に多く使っていますね

中山間直支交付金の共同取組分を活用して、イノシシよけの金網フェンスを設置しています。今年で取組 3 年目になります。昔は個々の農地を個人で囲って防いでいましたが、囲わなかった所が集中的に被害に遭っていました。

今では、地区の農地を長いフェンスで大きくぐるりと囲んでおり、地区全体でイノシシの被害を防げています。フェンス設置位置にも工夫し、山の中(林間)に設置しています。田と山との境に設置するよりも、草刈り労力が少なく済み、大変省力的です。

協定活動で他に特徴は？

昔は協定の活動費で運動会のような収穫祭をしていましたが、高齢化が進んだ今は、草履やしめ縄作りの活動をしています。

また、田の冬期湛水管理を実施しています。エサがあるんでしょね、タシギやオシドリもやってくるんです。夏には田の生き物観察会もしています。水生昆虫のゲンゴロウも見ることができます。今年はアキアカネ(トンボ)も戻ってきました。これらの活動は、都

市の方からは大変喜ばれていて、もう来年の申込も受けています。

今後は、都会の方に支持してもらえ  
る農業しか残らないと思います。そし  
て努力している所しか支持を得られな  
いと思いますね。



< 協定風景、遠くに十種ヶ峰を臨む >

将来はどうなりますか？

農業をする人がほとんど増えません  
ので、営農組合の活動は次第に行き詰  
まっていくと思います。農業者を勧誘  
するなら、退職直後がチャンスですね。  
あと10年は元気に農業をやれますから  
ね。

今後の農地管理については、畦畔法  
面の草刈りが最大のネックになると思  
います。地区外の営農法人にこの作業  
を外注できないか、という話が出てい  
るくらいです。

当地区には難しい水利慣行、特に水  
を無駄に流さないという習慣があるた  
め、他地区の方が営農するために入っ  
て来にくいようです。田に水をあてて  
流しっぱなしにすると、「水を無駄に  
使っている」と文句が出ますからね。  
しかしながら、当地区では高齢化が進  
んで来ているので、農地を守るために

は、当面は地区外の方の農地集積に頼  
ることになります。将来的には、地区  
内に法人等の組織を作らざるを得ない  
状況になると思います。

賢い中山間直支交付金の使い方は？

共同取組活動のお金の使い方につい  
ては、溝掃除の人夫賃などでばらまい  
ても役に立ちにくいと思います。お金  
がまとまったら良い仕事ができます。  
当地区では、ため池や水路の補修、共  
同利用機械の購入、イノシシ被害防止  
用フェンスの設置等をしてきました。  
次は、山の中を貫く水路の隧道を改修  
したいと考えています。

中山間直支の役割は？

これがないと(中山間地域の農業は)  
やっちゃおれん(やってられない)！  
と思います。共同農機の所有は、地域  
農業の延命策にもなっています。中山  
間直支がなければ、水田農業は維持困  
難となり、行き詰まっていたらろうと  
思います。本当に助かっています。



若崎委員(左)と吉松代表(右)



～取材を終えて～

山口県消費者団体連絡協議会

若崎 智子

私がお伺いした日は、道端に雪の残る肌寒い日でした。十種ヶ峰にはうっすら雪が積もり、遠くには国道やJR山口線が見えます。交付金は、ため池の管理や水路の整備に使っているとのこと。この地域には大きな河川がないので、水をととても大切にしています。夏場きちんと管理しておかないと水が足りなくなると聞き、稲作の苦勞が伺えました。

また、イノシシ被害防止のフェンスを、4 kmにわたって取り付けているとのこと、その長さにビックリ。熊にも5回出会ったことがあるよ、と話されたのは代表の吉松さん。

吉松さんは、この交付金があってとても助かっている、これがあるから農業が続けていけると話されました。この制度でため池や水路の整備、あぜ道の草刈を委託し農家の負担が少なくなったとのこと、またトラクターや大型の田植え機を所有。高齢化が進んでいる集落を支えているのだなと感じました。

しかし後継者問題は深刻で、すぐにでも考えていかななくてはなりません。

十種ヶ峰にはスキー場があり、それだけ気温が低くなる厳しい土地です。そこで農業を続けること

はとても苦勞も多く、大変な作業だと思えます。少しでも長く農業が続けていけるよう私たち消費者も考えていかななくてはいけないと思った1日でした。

★★★★★ 編集後記 ★★★★★

協定代表の吉松さんからは前向きな農業への取り組みの話聞くことができました。生態系に配慮した農業をするためには努力が必要なのですが、支持される農業を目指して、引き続き中山間地域等直接支払制度を活用していただきたいと思いました。お世話になりどうもありがとうございました。

★★★★★ お知らせ ★★★★★

過去の集落協定かわら版バックナンバーについては、当課HP「中間間直払お助け資料集」に掲載中です。どうぞご利用ください。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17200/chiikiagri/otasukeiryoushu.html>



山口県農業経営課 中野・石川  
電話：083-933-3350

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★